

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和元年 11 月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では火山性地震の活動がやや活発な状況が引き続き認められ、また、^{めだけ}女岳では地熱活動が続いていることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2-②～⑤、図 3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動及び低周波地震は観測されませんでした。

山頂付近では、2017 年 9 月頃以降、火山性地震の活動がやや活発な状況が引き続き認められています。

・地殻変動の状況（図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状況（11 月 26 日）

- ・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約 5 km）の映像です。
- ・女岳からの噴気の高さは 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年12月分）は令和2年1月14日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

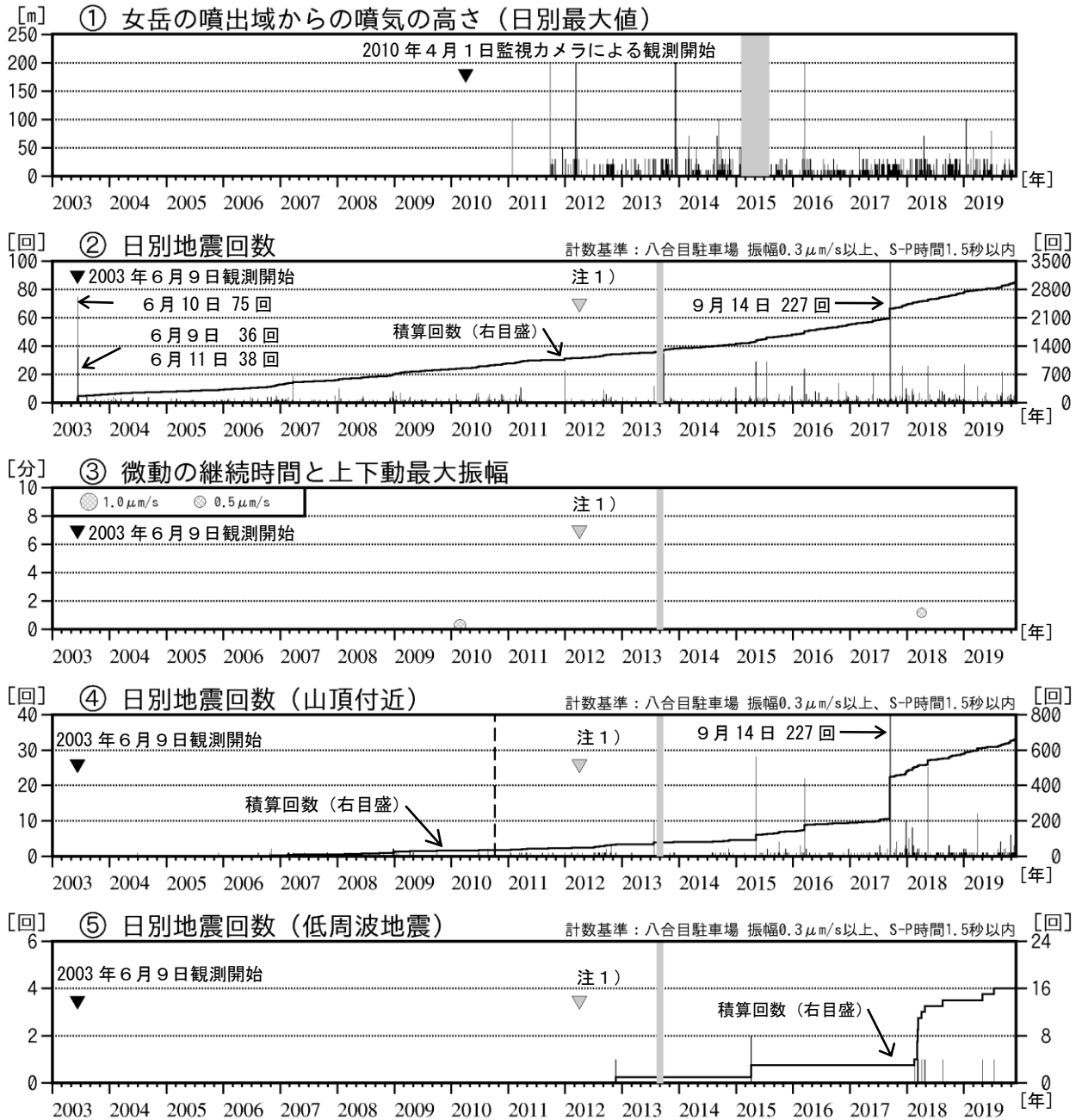


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2019年11月）

- ・①東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）による観測です。
- ・①～⑤の灰色部分は欠測を表しています。
- ・④は計数基準を満たす火山性地震のうち、山頂付近で発生したと推定されるものの回数で、2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・地震の計数基準観測点の変更は次のとおりです。
 観測開始 2003年6月9日～ 東北大学秋田駒ヶ岳観測点
 注1) 2012年4月1日～ 八合目駐車場観測点

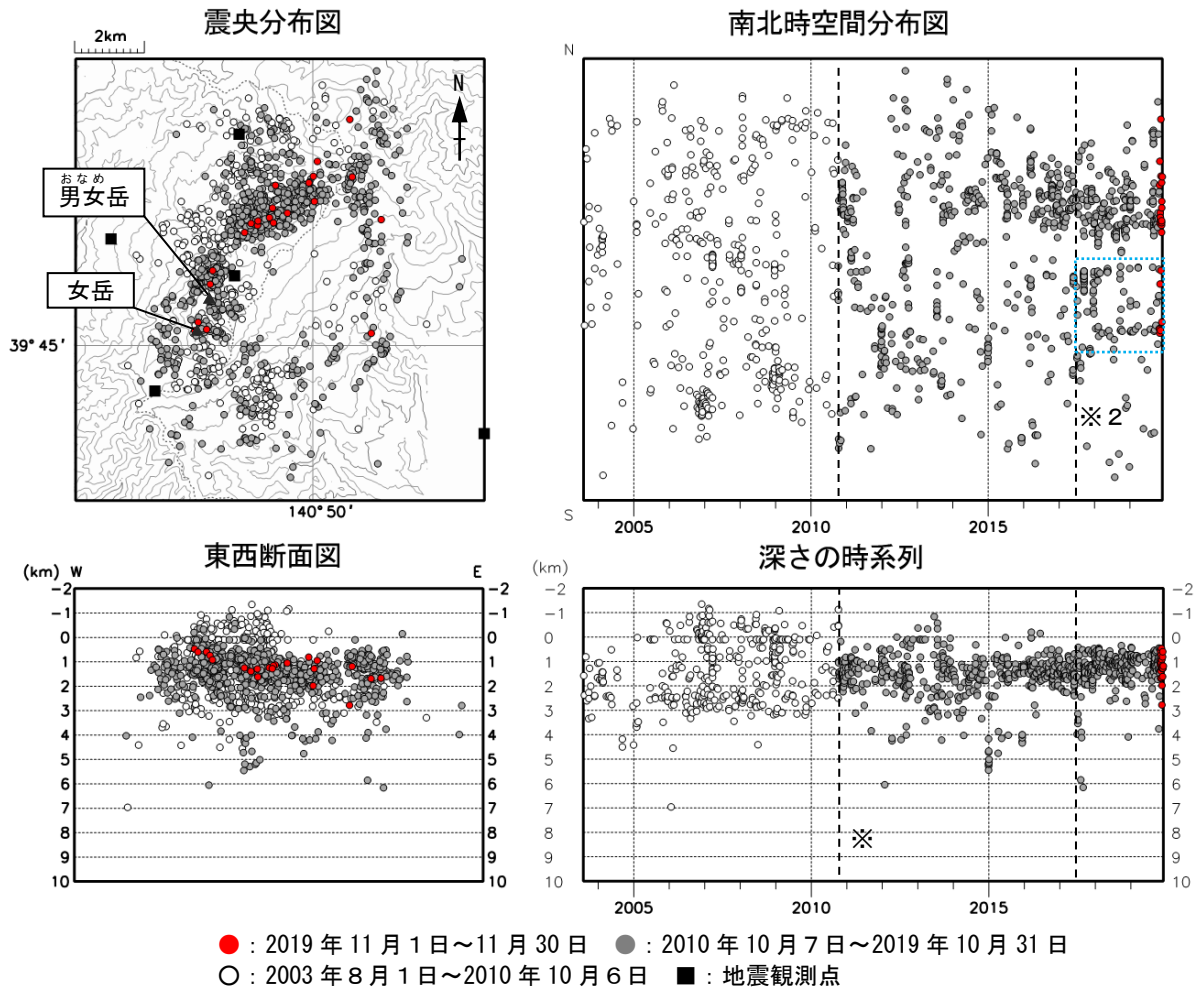


図3 秋田駒ヶ岳 地震活動（2003年8月～2019年11月）

・火山性地震は少ない状態で経過しました。

※ 2010年10月7日から八合目駐車場観測点を震源計算に使用しているため、震源の深さのばらつきがそれ以前より小さくなっています。

※2 2017年8月1日から姿見ノ池観測点を震源計算に使用しているため、山頂付近の震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています（水色破線）。

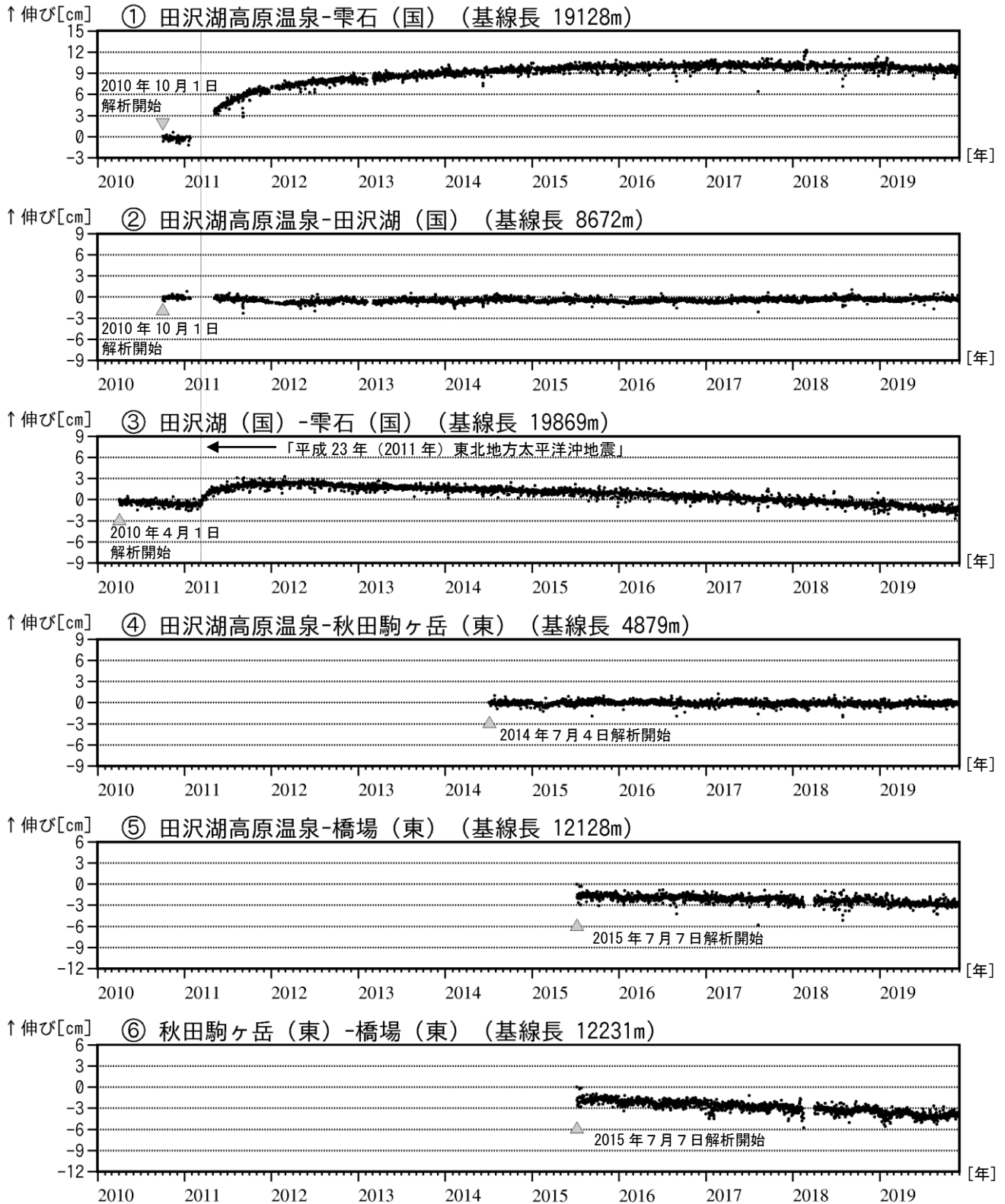


図4 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図 (2010年4月～2019年11月)

- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑥は図6のGNSS基線①～⑥に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。

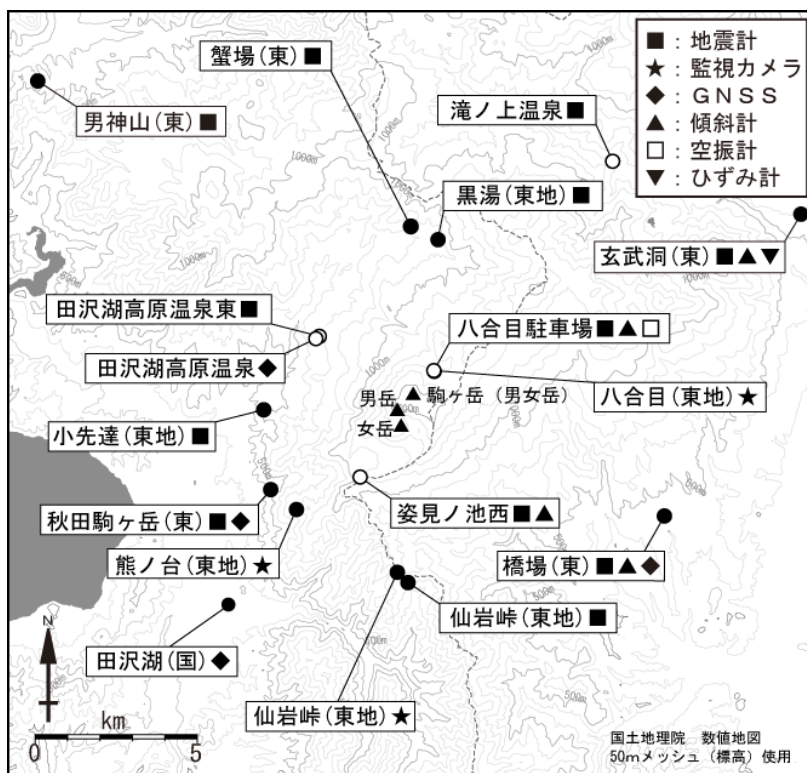


図5 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （国）：国土地理院 （東）：東北大学

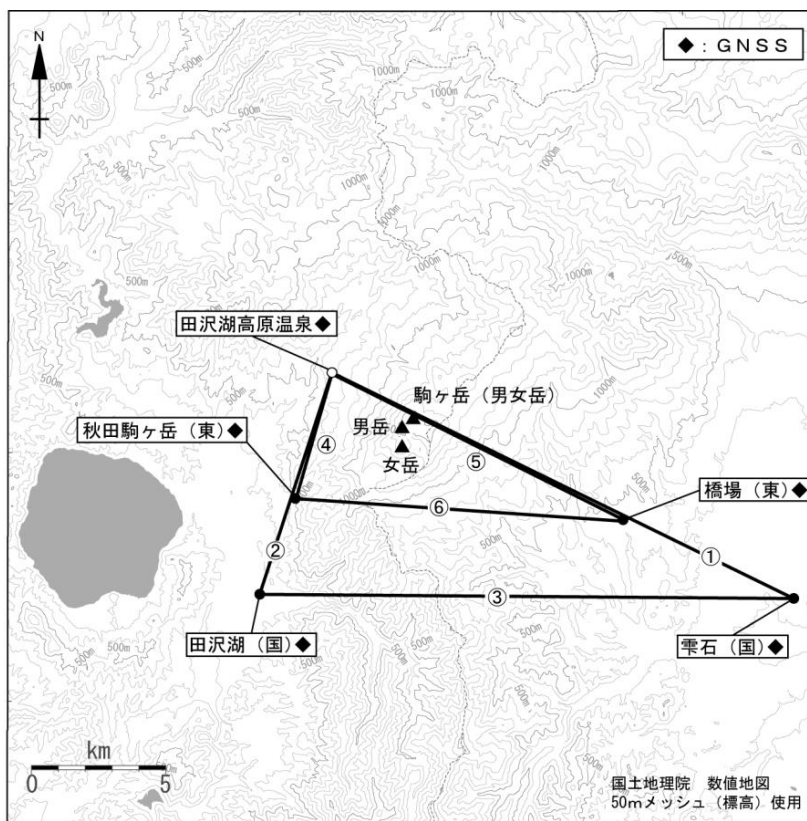


図6 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学